

当協会の研修委員会は、当協会にある11の委員会の中の1つであり、「全職種研修会」等の企画運営を担当している。私が研修委員に任命されたのは東日本大震災のあった2011年である。初めて参加した私が今でも鮮明に覚えているのは、全国の名だたる病院の医師、看護師、PT、OT、ST、SWが構成メンバーで、職種に関係なく活発に意見交換していた光景である。「さすが、チーム医療を実践している方々は、ここでも公平な議論ができる」と感心した。私はただただ何もいえず会の進行を眺めることしかできなかった。

あれから9年間、自分もこの仲間と議論したいと積極的に自分の意見を出すようにしてきた。ピント外れなこともあったかもしないが否定されることなく聴いてもらい、意見交換をさせてもらった。そうすることの繰り返しで自身の糧にもなっている気がする。自分の所属する病院を客観的に考えるよい機会にもなった。

研修委員会が担当する研修は、1)全職種研修会(年11回)、2)専従医師研修会(年2回)、3)診療報酬改定説明会(該当年のみ)、4)学会時のシンポジウムなど——の4つで、委員会を年3回開いている。以下、中心的な活動である1)全職種研修会について振り返りたい。

## 巻頭言

# 研修委員会を振り返る



池田 吉隆

当協会理事 研修委員会 委員  
(医療法人社団輝生会本部 教育研修局長、作業療法士)

全職種研修会は、文字通り会員病院に所属している全職種を対象として行う研修会となっている。年間11回(うち初級者コース2回、主任リーダーコース1回)の全国各地での開催である。研修形式は、座学だけではなく、ワークショップを中心に2日間で構成され、参加型の研修として成果の上がるような運用を目指している。1日目の夕方には懇親会を設け、日中に議論しきれなかったことや同職種ごとの情報交換を行う、さらなる交流の場としている。

テーマ検討は、毎年研修委員会で十分に議論し現場で必要なテーマを決定している。また、多職種で議論し成果を出すという模擬的なチームアプローチの体験ができるテーマにしている。これまでのテーマの変遷をみると、ここ数年は、「カンファレンス」関連のテーマが多い。研修

後のアンケートをみると「他職種の考えがわかった」「初めて多職種で話し合う経験ができた」など、われわれが狙っている全職種研修会ならではの意見が聞かれるとうれしく思う。

全職種研修会は、多職種を対象にする他にはあまりない研修会であり、毎年定数を割ることなく好評裏に運営できている。今後も当協会の一員として、チームでリハビリテーションマインドを醸成できるような研修会運営に寄与していきたい。